

一般社団法人日本小児看護学会 大学院生に対する研究助成についての Q&A

2023. 8. 22 作成

<申請者、応募資格について>

Q1：今年学会員になったのですが、応募できますか？

A：申請者（大学院生）は、応募時において正会員で、応募年度の会費を振り込まれた会員であれば応募は可能です。

Q2：現在、病院で働きながら大学院にも在籍しているのですが、応募できますか？

A：本学会の会員であり、応募年度の会費を振り込まれていれば可能です。ただし、大学院は所定の最短期間で修了することが望ましいです。所定の最短期間とは、博士前期（修士）課程は2年間、博士後期（博士）課程は3年間です。

Q3：現在教育機関に勤務をしていますが、応募できますか？

A：はい、できます。ただし、大学や研究機関に所属する者が申請者（大学院生）になる場合は、同じ研究テーマに対して、他の研究助成と併用することはできません。

Q4：外国人ですが応募できますか？

A：会員であればできます。

Q5：海外からの申請はできますか？

A：会員であればできます。

Q6：現在、取り組んでいる研究があります。すでに研究が始まっていますが、申請することはできますか？

A：はい、可能です。ただし、その研究に掛かった費用を過去に遡って請求することはできません。研究費を助成された年度に掛かった費用だけが助成対象となります。

Q7：同一の申請者が複数応募できますか？

A：同一申請者からの応募は、1件です。

Q8：同一の大学院から複数応募できますか？

A：大学院生が異なっていれば、同一の大学院からの複数応募は可能です。

Q9：以前採択された者が再度、応募することはできますか？

A：はい、以前博士前期（修士）課程を対象とした研究助成を受けた者が、博士後期（博士）課程を対象とした研究助成に応募することができます。

<研究テーマ、研究計画書について>

Q11：研究対象は海外の医療や福祉政策・制度等でも構いませんか？

A：研究により得られた知見が、日本の医療・福祉の発展に寄与できると考えられる場合は、構いません。

Q12：助成交付申請書に参考資料等を添付することはできますか？

A：学会所定の申請書以外に参考資料を添付することはできません。

<助成金の使途について>

Q13：助成金使途内訳について載っていませんが、研究に必要な物品購入費以外に、何に使うことができますか。

A：研究のデータ収集等に当たっての交通費やパンフレット制作費、配布用ファイル購入費などに使用することは可能です。不明な点については申請時に委員会にご相談下さい。

Q14：新しいケア方法を導入するための講師を海外から招くための渡航費等に助成金を使うことはできますか？

A：研究目的にそっていれば可能です。

Q15：助成金の研究課題に関連する学会の参加費・交通費・年会費を支出することは可能でしょうか？

A：助成金の中から自己研修費を支出することは原則として不可能です。ただし、研究実施のために必要不可欠な技術修得がある場合は検討しますので、申請時に委員会にご相談下さい。

Q16：年度末までに助成金を使い切れなかった場合はどうなりますか？

A：助成金は助成を受けた年度末までに全額使用することが原則です。支出において問題が生じそうな場合は、速やかに委員会にご連絡、ご相談下さい。

Q17：助成金でパソコンなどの備品の購入はできますか？

A：はい、できます。申請額の総計の50%までならパソコン、プリンタなどの備品を購入できます。

<報告書の提出、成果発表について>

Q18：研究が予定通り進まず、報告書を助成年度内に提出できない場合は提出期限を延長することはできますか？

A：原則として、報告書の提出期限は延長できません。提出期限までの研究の進捗状況と進行中であることを研究終了・途中経過報告書に記載し、会計に関する報告書と併せて、定められた期日までに提出して下さい。

Q19：研究成果発表は、口演と示説のどちらで行えばよいでしょうか。

A：研究成果の発表形態は、口演と示説のどちらでもかまいません。ただし、どちらにおいても日本小児看護学会の助成を受けた研究であることを必ず明示して下さい。